

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	市街地周辺の適正な利用(市街化調整区域の整序)		総合計画コード	512	
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(みどり公園課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	市街地の周辺に指定されている市街化調整区域では、市街化を抑制し優良な農地や良好な自然的環境の維持と緑地保全することを基本とし、緑地・自然環境と調和した、地域特性に応じた適正な利用が図られている。			
施策概要	荒川近郊緑地保全区域などの大規模緑地は生態系の保全・再生のための重要な区域として引き続き保全を図る。また、黒目川沿いに立地する東洋大学やわくわくどーむなど公共的な施設の土地利用を維持するとともに、少子高齢化に対応するため、拠点的な病院の立地の推進や福祉施設の整備の促進を図る。基地跡地では平成27年12月に国へ提出した基地跡地利用計画に基づき、市民参加を図りながら具体的な土地利用の検討を進める。			
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度
		朝霞しみどりの基本計画		H 12 年度 ~ H 37 年度
		朝霞市景観計画		H 28 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画審議会および景観審議会を開催した。</li> <li>・基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画見直し検討を実施した。</li> <li>・朝霞の森運営会議および朝霞の森運営委員会を開催した。</li> <li>・緑化推進会議および生物多様性市民懇談会を開催した。</li> <li>・埼玉県基地対策協議会、全国基地協議会及び全国防衛施設周辺整備協議会を通じて要望活動を実施した。</li> <li>・地元選出国會議員に対して基地関係予算の確保について要請活動を実施した。</li> </ul>					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	日常生活において不安を抱えることなく、安心して平穏に子どもを育てられ、また誰もが不自由に感じることなく行動できるまちづくりを進めた。				
	子育てがしやすいまち	自然や文化に接しながら子どもたちが心豊に成長できるよう、多くの自然が残る朝霞の森やシンボルロードの整備に向け関係者と調整を図った。				
	つながりのある元気なまち	駅前広場や朝霞の森、また黒目川を中心に年間を通じて様々なイベントを行い、多くの市民の交流を図ることができた。				
	自然・環境に恵まれたまち	朝霞しみどりの基本計画に基づき、市街化調整区域の緑と水辺の保全に努めるとともに、基地跡地の緑をできるだけ生かしたシンボルロードの整備基本計画を検討した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		32,850	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 市街化調整区域の適正な利用の促進 (説明) 目標年度において実施されている具体的な土地利用の内容	—	—	—	—	—	東洋大学周辺の適正な医療及び福祉施設の土地利用
		—	—	—	—	—
② (説明)	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—

### 3. 施策の分析

<p>達成度  (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ● C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) ・基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画の見直しにあたり、専門家や関係機関からの意見を反映し、シンボルロード整備基本計画(案)を作成し、パブリックコメントを実施した。 ・保護地区及び保護樹木の追加指定が進んでおらず、また開発行為等により生産緑地の指定解除が多くなっている。また保護樹木については管理に手間がかかるため指定解除の希望が多い。 ・国への予算要望活動についてはこれまでどおり要望活動を行った。</p>
<p>必要性  (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) ・基地跡地公園・シンボルロードの整備・供用に向けて、整備だけでなく整備後の利活用を含めた課題が判明してきており、対応が必要である。また、市民との協働により関心や意識を高めることができるため、取組を継続的に進めていく必要がある。 ・緑の保全、生態系の再生に対する要望が増加しており、市民参画の必要性が増加している。 ・樹林地や樹木の保全や維持管理には多額の費用がかかるため、所有者に任せただけでなく市が保全に関与することが必要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) ・市内に残された貴重な自然を有効に保全・活用するためには市民や事業者との連携・協働が重要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。 ・これからの公園・広場のあり方を検討するためには市民や事業者との連携・協働が重要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。 ・保護地区及び保護樹木は市の緑の保全に必要なものであり、存続してもらうための対策が必要である。</p>

### 4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) ・市街化調整区域において、残された優良な農地や良好な自然環境をできる限り保全していくとともに、地域の特性に応じ、街と自然環境が調和した土地利用を図る。</p>																																																																	
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) ・市民ボランティアを募集、育成、活用しながら市民意識を醸成し、自然の大切さと必要性を理解することで、緑や自然環境の保全、また公園の管理や運営を行っていく。</p>																																																																	
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H30に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H27決算</th> <th>H28決算見込</th> <th>H27決算</th> <th>H28決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">計(単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性	H27決算	H28決算見込	H27決算	H28決算見込	1								2								3								4								5								計(単位:千円)					—	—	—					
	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H30に向けた 投入資源の方向性																																																								
	H27決算	H28決算見込	H27決算	H28決算見込																																																														
1																																																																		
2																																																																		
3																																																																		
4																																																																		
5																																																																		
計(単位:千円)					—	—	—																																																											
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載																																																																		
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>【緑化推進会議】朝霞市みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想(第4期)に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。【景観審議会】朝霞市景観計画に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。 【外部評価委員会】基地跡地は駅から徒歩数分、幹線道路のすぐそばという、首都圏でも非常に恵まれた位置環境にある。災害時には、通勤、通学で朝霞を通過するような、市民でない人も含め、多くの帰宅困難者が発生すると考えられるので、基地跡地の防災機能について、広域的な防災施設にする観点をもって、国や県の協力を求めながら整備計画を策定してほしい。(自然・環境に恵まれたまちに関する所見より抜粋)</p>																																																																	
<p>部長の意見</p>	<p>市街化調整区域は、荒川近郊緑地保全区域や黒目川をはじめとする河川沿いの緑と水辺など優れた自然環境や優良な農地が残されており、これらをできる限り保全しながら、地域の状況に応じて、市街地と自然環境との調和を図りながら適切な土地利用が行われるようにしていく必要がある。このため、引き続き都市計画や開発に関する各種制度を適切に運用するとともに、基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画の見直し検討及び整備を行う際には、市民・事業者の参加・協働を積極的に図りながら進めていく。また、保護地区、保護樹木について解除申請が増加しているため、継続してもらうための方策を検討する。</p>																																																																	

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	市街地周辺の適正な利用(市街化調整区域の整序)		総合計画コード	512
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード 050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(みどり公園課、道路整備課)			

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 都市計画総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま
	2 緑化推進事業	—	—	5	5	現状のまま
	3 基地対策事業	2,603	2,258	4	4	現状のまま
	4 基地跡地整備基金積立事業	1,065	572	4	4	現状のまま
	5 基地跡地公園・シンボルロード整備事業	5,441	16,219	5	5	拡大
	6 基地跡地暫定利用事業	7,854	13,801	5	5	現状のまま
	7 道路施設修繕事業	—	—	5	5	現状のまま
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	16,963	32,850	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性